

7 番（小川義昭君）

ぜひしっかりと行政と社会福祉協議会が連携をとって、人的にも財政的にも大きな市からの補助金が出ておりますので、そういったこともあわせてひとつよろしく願いいたします。

この社会福祉協議会というのは、公の機関であるのか民間の機関であるのかが、一般には非常に見えにくい組織だと思います。ゆえに、その存在自体が市民の皆さん、特に若い人たちに周知されているとはとても言いがたく、まさしく社会福祉協議会の広報不足、情報発信不足は否めない感がいたします。

少なくとも以前は、市内の各戸に社協だより「ふれあいはくさん」（8 ページ）が配布されていまして。これは議長の許可をもらって、議場に持ち込みましたけれども、このように8 ページ立てのやつなのです。これはそれぞれの地区の社会福祉協議会とか、本当にいろんなボランティアの人たち、河内ボランティアの会とかいろいろなやつが8 ページにわたって載っているのです。

今までこれがそれぞれの各戸に配布されていたのですけれども、しかし、どのような理由があったのか、近年になって配布されなくなり、かわりに町内会の回覧板につけるということで、わずかこの2 ページです。これにはボランティアの人たちのことも余り入っていないのです。こういうものが回覧になってしまったわけです。

もとより、少子高齢化の急速な進展、地域における連帯感の希薄化、孤立死や児童虐待、若者等の引きこもり、高齢者や障害者の問題など、地域における福祉課題は多様化し、しかもふえ続けております。だから

こそ、社会福祉協議会の役割はますます重要となり、市民の皆さんに対しても、広く活動内容を周知することが肝要ではないでしょうか。いま一度、社会福祉協議会の社協だより「ふれあいほくさん」（８ページ）の各戸配布を求める次第でございます。これについての御見解をよろしくお願いいたします。